

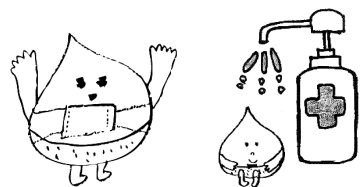
塩津神社大祭



1月9日(日)『塩津神社大祭』が行われました。塩津神社は、五島家の祈願社として建立。領主代々の崇敬の鎮守の神様となっています。“七五三・初宮参り・十三参り”と“喜寿・米寿・白寿”、“33厄・41厄”、“還暦”に別れてお参りしていました。小さな子供から大人まで、綺麗な着物・袴姿で参拝されていました。最後には還暦の方々の餅まきがあったりと、にぎやかにできて良かったですね。

新型コロナウイルス感染予防のために

マスク着用 と **手指の消毒** 忘れずにね!



Instagramで、まち協をフォローしよう!



崎山地区人口統計表(令和3年12月31日 現在)

	1区	2区	3区	4区	5区	6区	7区	8区	9区	10区	11区
男	74	74	46	55	58	55	73	97	95	40	41
女	87	85	61	73	67	69	78	109	96	53	51
合計	161	159	107	128	125	124	151	206	191	93	92

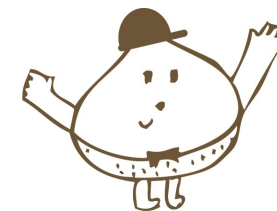
崎山地区全体 男 708名 女 829名 計 1,537名 (先月比-8名)

崎山地区まちづくり協議会 事務局 集落支援員 奥野

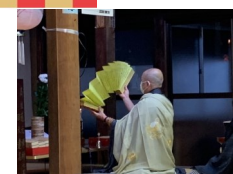
五島市役所 崎山出張所内 TEL 0959-73-6389

崎山地区まちづくり協議会

まち協通信 第21号



おもりさん



1月10日(月・成人の日)と翌日11日(火)、“おもりさん”が行われました。朝、お寺で経文を読んだあと、羽織袴姿のおもりさん一行が崎山地区の家を回ります。もろぶたに経文およそ10巻を載せ、その上に梅の小枝を置いて首から下げます。その経文を頭の上にかざし、「家内安全・無病息災。今年1年いいことがありますように。」と唱えます。かざされた方も、経文の下で手を合わせ、今年1年間の家内安全と無病息災を祈願します。

おもりさんが持っている大般若経(経文)は、平家の落人が火の岳山麓にある経塚に隠してあったものと伝えられています。梅の小枝を経文の上にのせるのは、経文を経塚から運ぶ途中、梅の小枝に掛かり、それを切り落としたことに由来すると言われています。(公民館だより107号より)各地区のおもりさん皆さんが、「梅の蕾をつけるのが大変だった。」と言っていました。

参加者募集

崎山地区の将来人口予測や、今どんな現状が見えてくるか話し合います。皆さんの参加お待ちしております。

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、中止になる場合があります。

『まちづくり協議会にかかる研修会』

日時：令和4年2月5日(土) 19:00~21:00

場所：崎山地区公民館 2Fホール

講師：都岐沙羅パートナーズセンター

理事・事務局長 斎藤 主税 氏

令和4年2月1日 発行

鬼岳火山群の溶岩台地（ジオ）に生きる “さっきゃまびと”

Vol.6
2022.2.1 発行
発行責任者
崎山地区まちづくり協議会
代表 古里 幸一
090-2393-1990

・・・鬼火焚き（おんのほねや がたろがずべや じんじもばんばもはよおきろ）・・・

五島にゃ、わけんわからん言葉ん、一びゃもある。こん、おんのめ、けたろがずべちいうのも、どんどやき「都風にゆえば、どんどやきちぞな」の囃し言葉で、青竹ん火の入って、パチッ、ちはじくつとき、皆んなで、手ばたたっ、おんのめ、けたろがずべち、囃すとじゃんな。こん、おんのめ、ち言うとは、鬼の骨ん、なまったち言う話じゃばってん、鬼の骨ん、鬼のめちなまっこちあ、ちよつとばかつ、おかしかち思わんかな。そつより、けたろがずべち言うとも、けたろがずべん、けたろはがっぱで、ずべは尻のこったな。そつで、がっぱの尻ち言う訳じゃけん、猿の尻や赤くてん、がっぱの尻は、どがんあつとか見たもんなおらん。【五島方言集 郡家真一著 おんのめ、けたろがずべ 抜粋】

令和4年1月6日（木）（七日正月）早朝、崎山地区健全育成協議会の案内もあり、昨夜の雨も何処へ消えたやら崎山小学校運動場に駆け付けた。夜も明けぬ空には北斗七星が輝くなか、木下会長の開会挨拶のあとの火入れである。パチッ！！パチッ！！燃え上がる炎と青竹が弾ける音に子どもたちは、何を祈願したのだろうか。ある近所の中学生が「今年も前向き（プラス思考）で頑張ります」と私に言ってきた。今年一番のありがたい言葉である。私はその場に佇み、この子らの無病息災を祈念し合掌した。

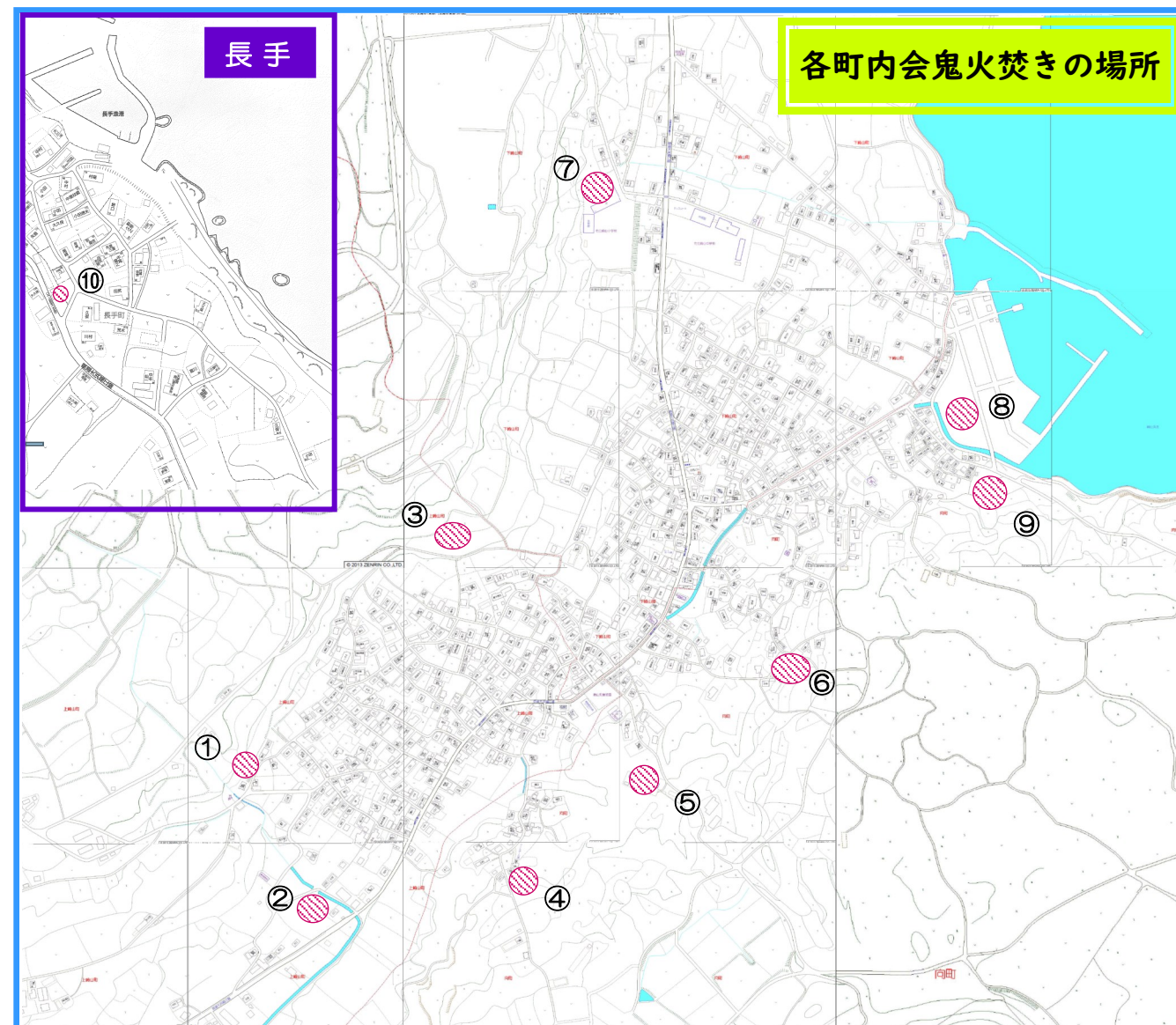


・・・さっきゃまで“火の鳥飛び立つ”・・・



鬼火焚きは、七日正月（1月6日又は7日）主に九州西側で行われる火祭り、正月飾りについてきた悪霊を追い払い、残り火で餅を焼いて無病息災を願う村の祭り・民俗行事である。このさっきゃまで何時ごろから行われてきたのか知る術もない。ただ、各町内の子どもたちで準備から鬼火焚きまで実施していたのは、第一町内会で昭和60年（1985）頃までと聴く。準備の段階で青竹が盗難にあうので、寝ずの番までしていたと諸先輩たちからも聴く。それだけ子どもたちにとって大事な行事であった“おんのほね”。ただ、寂しいのは燃え上がる炎を見ても“おんのほねや がたろがずべや じんじもばんばもはよおきろ”との子どもたちの掛け声がないことである。往時は、各町内会単位で鬼火焚きの場所があった。今では、第一町内会の跡地ヤマンカン（山祇神社側）は、藪や竹林となっている。今年の“おんのほね”は、悪霊を追い払うかのように勢いよく燃え上がる炎が、今にも羽ばたき飛び立つ火の鳥のように見えるのは、私だけだろうか。

社会福祉法人さゆり会は、“崎山鑑瀬自然を守る会”“崎山まちづくり協議会”を応援しています。



- | | |
|----------------------|---------------------|
| ①第一町内会→ヤマンカン(山祇神社側) | ②第二町内会→上崎山共同墓地下、県道脇 |
| ③第三町内会→金河原(キンゴラ)付近 | ④第四町内会→ゴヤ |
| ⑤第五町内会→観音様下(崎山保育園付近) | ⑥第六町内会→下崎山ゲートボール場付近 |
| ⑦第七町内会→崎山小学校校舎付近 | ⑧第八町内会→木馬の下、砂の畑 |
| ⑨第九町内会→白浜漁港の砂浜 | ⑩ 長手 →上長手バス停付近 |

※いろいろな年代の方に聞いたので、誤差があると思います。

※長手町内会は鬼火焚きを『どんど焼き』というそうです。



～五島ジオパーク構想とは～

ジオパークとは、「地球・大地(ジオ:Geo)」と「公園(パーク:Park)」を組み合わせ「大地の公園」という意味です。ジオパークでは、見どころとなる場所を「ジオサイト」に指定し、多くの人が将来にわたって地域の魅力を知り、利用できるよう保護を行います。その上で、ジオサイトを教育やジオツアーなどの持続可能な方法で経済活動に活かし、地域を元気にする活動や、そこに住む人たちに地域の素晴らしさを知ってもらふ活動を行う取り組みです。

